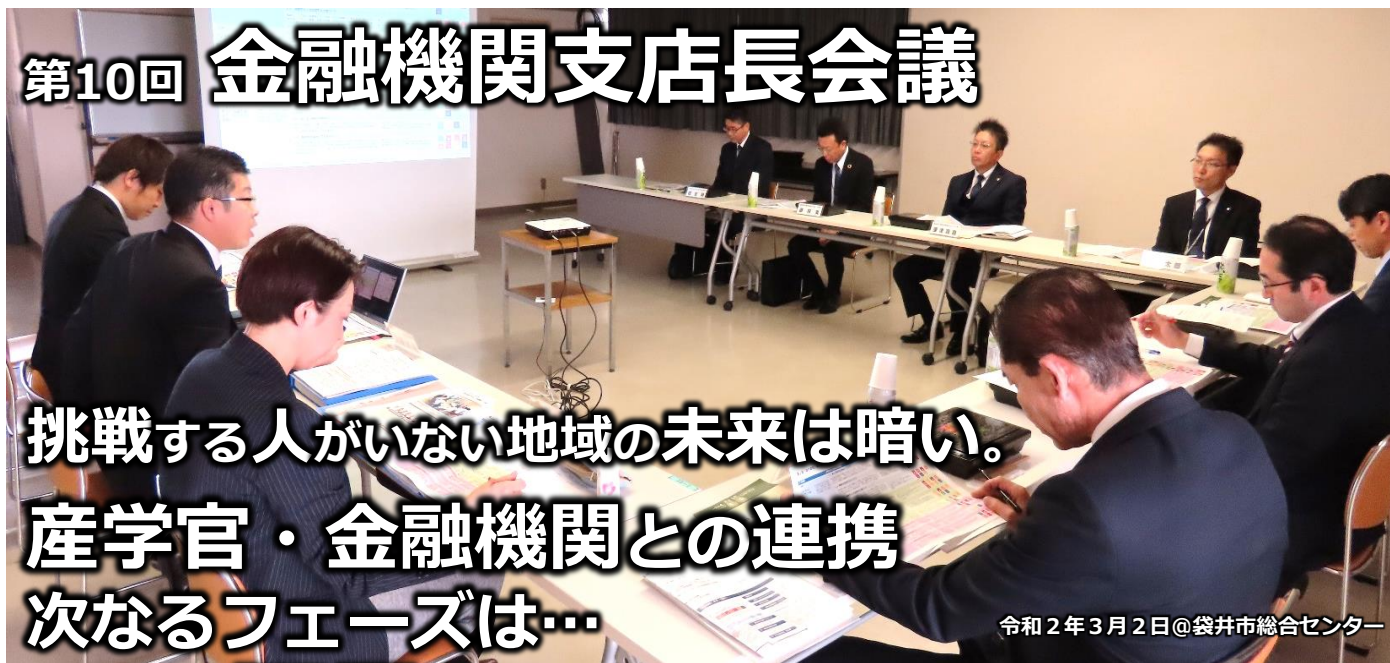


## 第10回 金融機関支店長会議



**挑戦する人がいない地域の未来は暗い。  
産学官・金融機関との連携  
次なるフェーズは…**

令和2年3月2日@袋井市総合センター

# 組織の垣根をいかに外すことができるかがカギ

金融機関支店長会議メンバー

株式会社静岡銀行袋井支店	支店長 片山 貴彦	島田掛川信用金庫袋井支店袋井南支店	支店長 深津 真喜
スルガ銀行株式会社袋井支店	支店長 浅川 健一	遠州中央農業協同組合袋井支店	統括部長 杉山 誠人
株式会社清水銀行袋井支店	支店長 芝田 光弘	静岡県労働金庫袋井支店	支店長 原田 実
浜松磐田信用金庫袋井中央支店	支店長 野中 太郎	日本政策金融公庫浜松支店	支店長 乾 豊和 兼中小企業事業統括



### 1 次期戦略の方向性について

- 第2期総合戦略の方向性は間違っていない。第1期での取組をベースに他地域との差別化（袋井らしさ）を一層追求しつつ、協調領域については、広域連携を推進する両面展開が必要。
- 金融機関へのニーズも、資金面だけでなく、企業の課題解決に向けたトータルコーディネートを求められており、多様な主体との連携強化が必須。支援を求める企業側の視点に立てば、現在の産学官・金融との連携においても各組織の垣根がある。連携の次なるフェーズとして、垣根のない新たな仕組みづくりが求められている。
- 袋井は保守的な気質の方が多い印象。他の地域と比べ、チャレンジングな取組や周囲の仲間に火をつけるようなリーダー的な企業や人が少ない。
- 例えば、お茶業界における丸七製茶（株）「ななや」に代表されるように、この時代はニッチな部分を最初に攻めた人だけが儲かっている。消費者の嗜好を捉え、時代の流れに必死で対応しようと挑戦していく熱意と実力を持った人や企業（挑戦する人）を応援することが地域活性化の未来を拓く。逆に言えば、挑戦する人がいない（挑戦しにくい）地域の未来は暗い。

### 2 戦略の進め方について

- この地域に暮らす人たちが「この街に住み続けたい」と感じる「暮らしぶり」や「ライフスタイル」などの希望や夢をいかに把握し、施策に反映できるかが重要で、アンケート調査や各種データの取得や分析の重要度は増している。
- 高校との連携強化策として、首都圏に行った自分と地元で働く自分などを「お金」の面から比べるライフプランセミナーを高校生対象で開催するなど、自分の将来や地域のことを考える機会のほか、高校生のビジネスプランコンテストの開催など金融機関と連携し、実施してみるのはどうか。
- 高校で卒業生を招き、自分たちの先輩が社会でどのようなことを感じているかを語ってもらう機会をつくってみてはどうか。

### 3 包括連携協定の取扱いについて

- 各金融機関と包括連携協定は継続することを前提とし、次期戦略の方向性等を鑑み、具体的な取組に係る申し合わせ事項（共通テーマと個別テーマ）については、再設定する方針。
- 個別テーマについては、各金融機関の意向を最大限尊重する方針。